

# 図書館だより

令和3年8月23日号

## 図書館こぼれ話

以前紹介した図書館の新しい低書架へ文庫本を移動しました。低書架にしたことで文庫本がより探しやすく取り出しやすくなりました。新しい文庫コーナーで心惹かれる1冊を見つけてください。

今日は2学期の始業式。みなさん充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。オリンピック観戦に夢中になった人、進路実現に向けて勉強に励んだ人、部活動に全力を注いだ人、様々な夏があったかと思いますが、今日からはまた学校生活のリズムになれていきましょう。9月には桔梗祭が予定されており、各クラスとも準備に忙しくなってきますが、体調に気をつけながら、素敵な作品を完成させてください。どんな作品やパフォーマンスを見ることができるか楽しみにしています。

## ●文化祭が舞台になった小説では必ず何かが起こる！？

913.6-ア 『文化祭の夢に、おちる』

彩月 美月 || 著 講談社

3年に一度行われる桐乃高校の文化祭。その前日、準備で賑わう校庭で事件は起こる。崩れ落ちた壁面の下敷きになった5人の生徒。意識を戻した彼らが見たのはいつもと同じ見慣れた町と校舎だった。しかし、どこにも人の姿がない。ここはどこなのか。なぜ誰もいないのか。彼らは元の世界に戻る方法を見つけることができるのだろうか。

B913.6-カ 『レヴオリューションNo. 3』

金城 一紀 || 著 角川書店

有名進学校ばかりが集まる新宿区の中で僕らの高校は「ゾンビ」と呼ばれ、周りからはかなり浮いている。そんな学校に通う僕らには毎年失敗し続けている企みがある。愚かでくだらないことにしか見えなくても僕らは大切な友だちのため、青春を最高に楽しむため、高校生活最後のおバカな挑戦を開始する。

## ●青少年読書感想文全国コンクール課題図書は奥が深い！

913.6-テ 『水を縫う』

寺地 はるな || 著 集英社

縫いものが好きな少年 清澄と家族の心模様を描いた物語。「普通」の男の子らしさを求める母と衝突しながら、フリルやリボンがついた「普通」のドレスを着たくない姉の水青のため清澄はウェディングドレスを作り始める。みんなの言う「普通」に違和感を持ち、もがく清澄と水青だが、このドレス作りが彼らと家族に変化のきっかけを与えてくれる。

933-ホ 『兄の名、はジェシカ』

ジョン・ポイン || 著 あすなろ書房

兄のジェイソンはサムの子供だ。しかし、兄の深刻な告白によって、一家は混乱の渦に巻き込まれてしまう。ありのままの自分を受け入れてほしいジェイソン、元に戻ってほしいサム、正気とは思えないジェイソンを受け入れない両親、話し合えば合うほどバラバラになっていく家族はどうすれば絆を取り戻せるのだろうか。

## ●司書の『今月はこの本を読みました』

高校時代に友人の薦めで読んだよしもとばななの『SLY スライ』(B913.6-ヨ 双葉社)を再読しました。物語の中では3人の男女がエジプトを旅します。3人の不思議な関係性やHIVという病をきっかけに生と死を意識し始めた彼らの心情が美しく神秘的なエジプトの風景と共に描かれています。高校生の頃は物語から伝わってくるエジプトのパワーにひきこまれ、「いつかエジプトに行きたい！」と憧れを一番に感じましたが、今読むと、不安や恐怖を抱きながら旅に出た若者たちがエジプトという地が持つ力を借り、心の折り合いをつけていく様子に関心が向きました。感じ方が変わったなと気づくのも再読のおもしろいところです。【今井】

## ●気になる新着本

407-コ 『なぜ私たちは理系を選んだのか』

榎 太一 || 著 岩波書店

生き物が好きで理系の大学院まで進み、アナウンサーになった榎太一さん。その榎さんが大学で理系を学び、様々な分野で活躍する7人に理系に進んだ理由、今の仕事と理系で学んだことはどう繋がるのかを聞いています。進路を決める際の視野を広げてくれます。

913.6-マ 『男の子になりたかった女の子になりたかった女の子』 松田 青子 || 著 中央公論新社

書名が印象的な短編小説集。どの話も独特な雰囲気がかっこいいですが、不思議なことに読んでみると自分の気持ちを代弁してくれているような言葉と出会うことができます。心に抱えていた違和感や苦い記憶から少し解放されたような思いがする本です。